



倭漢朗詠集卷上

春

立春

早春

春興

春夜

子日

付若菜

三月二日

集紀

暮春

三月盡

同三月

寫

梅 付紅梅

躑躅

夏

更衣

端午

花橋

螢

秋

立秋

露

柳

款冬

首夏

納涼

蓮

蟬

早秋

雨

花 付落花

藤

夏夜

晚夏

郭云

扇

七夕

秋興

秋晚

秋景

八月十五夜集 付月

九月九日 付菊

九月盡

女郎花

荻

蘭

棹

菊

紅葉 付紅葉

鷹 付鷹

虫

鹿

露

霧

擣衣

冬

初冬

冬夜

歲暮

爐火

霜

雪

冰 付春冰

葭

佛紅

春

立春

逐吹潜开 不待芳菲之候 迎春  
 寒将希 雨露之恩  
 池凍凍頭 風度解 意梅北 面雷封 寒  
 柳 無氣力 條生 初池 有波 女冰 造開

斗日

名



連増氣色晴沙綠林度容輝宿書紀  
いそぎくくるかんののふれさわひ  
りそいつふまふらにうら  
やうせりやくほにありのり  
うらいつるかなやけりのり  
見わたるはひののわいり  
われつひあくるはきりにあり

春興

飛下と海周美系松の動解是春風

野草芽花紅錦地遊絲縹紅碧堆  
秋酒家花處莫空管領上陽春  
山桃漫野桃日曝紅錦之惱柳  
岸柳風宛鞠廣之結  
着野展敷紅錦縹菊遊織碧羅  
林中花綺開落天外遊絲或有





子ら場もく。かゝるるるるるるは  
あふひのくくくくくくくく  
跡のひのふふふふふふふふ  
ひくくくくくくくくくく

若菜

野中<sup>ニシラフ</sup>毛菜<sup>モウサイ</sup>書<sup>シヤ</sup>推<sup>オシ</sup>之<sup>ノ</sup>惠<sup>ヱ</sup>心<sup>ココロ</sup>燻<sup>スン</sup>下<sup>カ</sup>和<sup>ワ</sup>多<sup>タ</sup>美<sup>ミ</sup>  
俗人<sup>ソコジン</sup>属<sup>リョク</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ギ</sup>指<sup>シ</sup>  
あすはははははははははははは  
何のあはははははははははははは

あはははははははははははは  
あはははははははははははは  
あはははははははははははは  
あはははははははははははは

三月三日 付桃花

春<sup>ハル</sup>来<sup>キ</sup>通<sup>トウ</sup>是<sup>シ</sup>桃<sup>トウ</sup>花<sup>カ</sup>水<sup>スイ</sup>不<sup>フ</sup>辞<sup>ジ</sup>仙<sup>セン</sup>源<sup>ゲン</sup>行<sup>コウ</sup>嵩<sup>ソウ</sup>寄<sup>キ</sup>  
春<sup>ハル</sup>之<sup>ノ</sup>暮<sup>ク</sup>月<sup>ツキ</sup>之<sup>ノ</sup>三<sup>サン</sup>朝<sup>チウ</sup>天<sup>テン</sup>醉<sup>スイ</sup>干<sup>カン</sup>花<sup>カ</sup>桃<sup>トウ</sup>  
李<sup>リ</sup>威<sup>イ</sup>也<sup>ヤ</sup>我<sup>ガ</sup>后<sup>コ</sup>一<sup>イチ</sup>日<sup>ニチ</sup>之<sup>ノ</sup>澤<sup>タク</sup>可<sup>カ</sup>機<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>餘<sup>ヨ</sup>曲<sup>キョク</sup>水<sup>スイ</sup>





ふれとみふらりあつたははへは  
あそかたりあつたは  
あつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたは

同三月

今年同在春三月利見金陵一月  
婦籍歎寫更運由於孤也  
林森蝶意翩翩一月一花

花梅梅根善善梅を期入  
くけふもるくくくくくく  
人のくくくくくくくく

鷺

鷺

鷓既鳥志信詩且寫未出遺  
誰家碧樹寫時  
幾幾幾幾幾幾幾幾幾幾



震

震光曙後殿柱火草久晴来嬾似烟  
鑽沙若共三石許跨樹裏殘生後餘  
かすみのやふいもやいほこみなり  
けうくろくえいもやいほこみなり  
あゝいほすもいほこみなり  
けいのすきはらもいほこみなり

雨

戒垂花下潜増墨字子之悲対疎籟  
間暗動潘郎之思  
長樂鐘初起花の音龍池板の雨中涼  
春海自為祀父母洗来率辨藥君臣  
為新開日初陽潤鳥老婦一呵為暮陰







平島廟むお心粉眼天村柳多共上眉

戒心老を風情少目んは年と共一白詩

大原山嶺と梅早落誰の粉粉結直唐山

と杏未開豈趣紅紫

雪路紅鏡枝束日春好若何珠粉粉風

枕雲毛近晴庭月暗陸池逐日以燈筆

潭心月はま枝桂岩占風来浪家ふ顔

あまやまのひもりかづけりーりや

みさねく花をほこりひひし

けさくれを志こりやかよふままふの

いりりりりりりりりりりりりりりりり

花

花明上苑松竹馳九陌之廣稼川

山斜月莹子散之海

池色溶溶盛深水花光焰焰火燒

遙見人家花便入不福貴賦与親疎

莹目莹風高位子顯可影之玉

深枝淺浪表裏一入再入之如

誰謂水无心濃豔臨去波亦及之

誰謂花不語輕漾激步影動眉

欲理水則淺水難移鏡清炎

欲理水則淺水難移鏡清炎

纖日何愁唯羨的裁意氣攝紅毛風

花光少錦步深梧枝老若風未盡

始識春風機上巧那唯織女子美

眼を鼻南郡裁裁錦身供夫城調  
よの中にしてはくらのあろを  
けられらるるけり  
らるるのけりえりりりりりり  
らるるのけりえりりりりりり  
てしたにりりていっはふ  
落花

落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空

朝踏落花相付出暮随花多一  
春花面入酣暢  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空  
落花不借空

かみのりたのまのりやたこりりあは  
にらららあまこいめあま

鄭 燭

晚葉尚用紅鄴燭秋房初結白葉書  
和遊人欲為未把筆食家飯  
すいいつらまのりやまふいつし  
いねいしあまこいめあま

款冬

點着唯黃天有雪款冬誤續雪風  
書之有葉相収拾紙書又未事  
のりあまこいめあま  
いあまこいめあま  
まあまこいめあま  
らあまこいめあま

藤

梅沙雪思二月集雪藤花は名開

此意森落庭外花さびしき  
大のこゝれさしけり  
わきていんぬ人のこゝろ  
さしけりさびしき  
かきくさのけりさしけり

夏

更衣

背屏燈残さ宿始開お衣若陽年者

更衣欲待家人者宿醒常松色老面

さるりへささささささささささ

首夏

露滴竹葉経者熟階庭萬殿入衣用  
若生石面極衣短ゆ出池心小葉疎  
わやののささささささささささ  
ささささささささささささ

夏夜

風吹枯木暗天西月照平沙夏夜  
風生竹葉響空山月照松花影  
露滴芭蕉濕夜涼  
人語夜深  
かんのよれあまもくし  
まひしあまののめ

端午

有田高戸たがたまはな故園  
わのい海とくまあひらあや  
あひとくまもくま  
まのふまそくま  
ふまのつまそくま

絶涼









山鏡表裏類過油海賊偏中似霜流  
まのつらみあふらやのわりの  
風まきまぬいかたふかりあひ  
ひらきまかたぬものほろひ  
かたりあふらまひかりかり

蝉

遅く歩春日玉替暖き温影流  
遅く歩秋風山蝉鳴るる樹に

子奉鳥路合梅雨五月蝉鳴るる  
鳥不録甚疾不寐寐中鳴るる  
今年夏例腸先節意蝉忠なる  
歳去歳来独ふまきま林後  
まのつらみのつらみ  
まのつらみのつらみ  
まのつらみのつらみ  
まのつらみのつらみ



うらけいものさかきーさーありら  
あさのはーあさきーあさきー

早秋

印

但喜暑随三伏去 不念秋送二毛来  
槐花雨润新秋地 桐葉風涼欲夜天  
炎景剩殘衣尚重 晚涼潛到菊先知  
あさきーあさきーあさきーあさきーあさきー

七夕

憶得少年長乞巧 竹竿頭上解絲多  
二豎適逢未叙別 緒依々之恨  
不夜將的頻寫涼風調々聲  
露應別淚珠之落雲身是殘粧 未識  
之衣曳浪霞在濕初燭漫流月欲銷





芳字お海邊人  
あひらのやまのりおの  
まのりおのりおの  
まのりおのりおの  
まのりおのりおの  
まのりおのりおの  
まのりおのりおの  
まのりおのりおの  
まのりおのりおの  
まのりおのりおの

二月十一日

付月

来糸由之千餘里  
凍之氷鋪漢家  
之三十六宮  
澄之彩鏡

織錦機中已辨  
相思之字  
掛秋  
砧上  
俄添怨別之聲

三五夜中  
新月色  
千里外  
故人心  
嵩山表  
裏子  
重雪  
洛水  
直恨  
交頸  
珠  
十二迴中  
無勝於世  
夕之好  
子方里  
外各爭  
於吾家  
之先

碧浪金波三五初秋風討會似雪  
自懸荷葉凝霜早人道是盧花過雨餘  
岸白遂迷相上鶴潭鞋可共芙蓉中魚  
滿池便是尋常事此夜清明玉不如  
金膏一滴秋風露玉連三更火漢雲  
揚貴妃歸唐帝思李夫人漢皇情

み川のせむにては月さそは  
こよひうあさのもかたりりり

月

誰人隋外久河成行漢庭前新別  
秋水漲來船去速夜雲收盡月影遲  
不解點中一氣去得磨園山月正  
天山不辨何年雪入白浦應迷舊白珠



欲和曲豐嶺鐘聲不其奈華其鶴言何  
鄉澹數行征成客掉秋一曲釣漁蘇  
あまのほろろあまのけりみきはかすりかなら  
みくれ山といきり頂くと  
あまのほろろあまのけりみきはかすりかなら  
かすりくみゆるあまのよれ月  
あまのほろろあまのけりみきはかすりかなら  
月よりのけりみきはかすりかなら

九日 付菊

鸛鳴知法日穉巢老菊為重陽冒雨開  
採故事於漢武則赤萸揅交人之衣  
尋舊迹お魏文之黃花 equal 祖之術  
先三遲考吹其花 equal 曉星之博河漢  
引十分考道湯其彩疑秋雲之迴洛川  
谷水洗花汲下流而得上壽者二十



ひらこののそみうぬまてんほまきくは  
あつかりーとそあやまきれり

九月盡

縦以璿函為固難苗蘭蕊於雲衢

今孟貴而追何遠爽賴於風境

頭目縱隨禪客乞以秋施与太應難

文萃案纏白駒景胡海艇舟紹素聲

ヤコトコヒ

ヤコトコヒ

わいここれ繁しふとけりわいこ

わいここれ繁しふとけりわいこ

女郎花

花多山並紫葉俗呼為女郎因名戲也

翠僧老思思長新首似霜

をみまふしおぬる野きりりやうらな

あやたうあこのみとやそらあま



わーるぬはまのひりあさのふ  
あさきもーもらりまうも

惶

松樹子年終是朽槿花一日自為榮  
来而不留薤露有拂晨之影  
不返槿離五投暮之花  
あはつたまきりあさのふ  
あさきまのふ

あさきまのふ  
人よけまはさきりあさのふ

前栽

多目栽花悦同傳生時嫁春待用遊  
自若閑寂家傳供春樹春栽秋草秋  
閑思着汝花紅日正是當吾驥日年  
曾那種處思元真為是花時供世尊

ちりさうりすしきうきふ  
くしりわらさしきうのぬ  
しあしきうのきうきうの  
とくまいりあひとくし

紅葉 付落葉

不堪紅葉青苔地 又是涼風暮雨天  
黃纈纈林寒有葉碧瑠璃水淨在磨  
洞中清淺瑠璃水庭上蕭疎錦繡林

外物獨醒松洞多餘波合力錦江聲  
あつるゆもくはもいそまふや  
した葉のさすもかり  
むりりたあまきとうみるはかやまの  
けそののりからさりさぬは

落葉

三秋而雪漏正長空階雨滴万里  
而郷園何在落葉不意深







けりてみたりとるをりしりり  
いあさきさきさきさきさき

去

心雨夜愁人耳  
か暗下粟深葉葉秋大思婦

霜草欲枯出思苦風枝未見多極難

床媿短脚養聲聞聲狀心亂

山館、面河鳴自暗野亭風處織打寒

葉多怨遠風同暗聲底吟幽月夜寒

あまらんとこれさあめも舞あまのうた  
あまらんとこれさあめも舞あまのうた

あまらんとこれさあめも舞あまのうた  
あまらんとこれさあめも舞あまのうた

鹿

天竺若路清僧歸寺紅葉聲乾鹿在林

暗遣食草<sup>テ</sup>才<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>更<sup>ニ</sup>随<sup>フ</sup>草<sup>ニ</sup>德<sup>ニ</sup>鳳<sup>ノ</sup>来<sup>ル</sup>  
しらをぬとさけのやまふすり  
このれあさこや林とあえん  
いふ川くまよらのやさになん  
急のしらやあさならん

露

可憐<sup>ス</sup>九月初<sup>ニ</sup>秋露<sup>似</sup>珠<sup>ニ</sup>月<sup>似</sup>写<sup>ル</sup>  
西<sup>ノ</sup>海<sup>東</sup>東<sup>ノ</sup>朝<sup>露</sup>玉<sup>玉</sup>風<sup>吹</sup>杉<sup>葉</sup>雜<sup>来</sup>清<sup>々</sup>

何と一のあさこやの林のさき  
たまこみくさけとけり

露

竹<sup>葉</sup>曉<sup>籠</sup>籠<sup>籠</sup>月<sup>顔</sup>風<sup>暖</sup>送<sup>過</sup>春<sup>春</sup>  
雜<sup>熱</sup>夕<sup>夕</sup>露<sup>露</sup>理<sup>人</sup>枕<sup>枕</sup>朝<sup>朝</sup>書<sup>書</sup>あ<sup>る</sup>猶<sup>猶</sup>  
あさこめけあささあさあさあさあさ  
はらのやあささあさあさあさあさ

接衣



神さるるき かりんもくひまこくし  
くわうしゆのけしりけり

冬夜

一、ハ盡寒燈ト雪外夜數盡ト温耐富ト春  
年光自ラ向燈ト前盡ト宿思唯ト送ト杭ト上ト生  
もい子いもいりゆりはしあのみ  
ふけせさしりりかきり

歲暮

寒流ト昔ト月ト澄ト如ト鏡ト夕ト吹ト和ト霜ト利ト似ト力  
風ト雪ト易ト四ト人ト前ト業ト歲ト月ト雜ト後ト老ト應ト還ト  
ゆりけしりりかきり

爐火

黃藤ト綉ト醜ト逆ト冬ト熱ト絳ト懷ト紅ト爐ト逐ト秋ト開ト  
看ト野ト馬ト聽ト窓ト臘ト裏ト風ト先ト送ト火ト迎ト

此中應鎖花樹取封未終日自有清  
他時從醉寫花下近日那誰歎  
かくふまきんくわらぬまのくさ  
うたふまきんくわらぬまのくさ

霜

三秋岸雪花初白一夜林霜葉盡紅  
萬物秋霜能壞矣四時冬日窮凋年

國運多夢騷馬武潘孤婦之碓上山深  
感動先後四皓之蹟也  
若子夜深聲不絕暮老和年晚蹟相驚  
敵已斷萬耳鶴步之初駕葛屨人  
晨積瓦濤萬裏色和天無新秋  
ふんばいそあつにさくせん

雪

曉入梁王之苑雪洒群山為翠度

公之樓月明千里

銀河沙漲三子界梅嶺可開一可株

雪似鷄毛死散無人披鷄毛主仙仙

或逐風不返如振羣鷄之毛上為青

羽殘疑綴舞松之脈

翅似得群梅浦鷄心在系與披羽人

立於庭上頭為鷄生且猶鷄之子飛

翔女園中秋扇多愁且屋上秋聲

のののののののののののののののの

のののののののののののののののの

のののののののののののののののの

雪のふりては 木もくもり 花もさびしき けり  
うれとじりて けりて けりて けり

氷 付まぬ

氷封水面 氷雪自然 林嶺見有花  
霜妨鶴 暖る冬 氷結 氷  
おほくは 月のひかり けり  
かきかき けりて けりて けり

春の氷

氷消見可多 移地雪霽 晴山雪入 梅  
氷消漢 氷結 霜雪 畫架 主 不在 枝  
胡堂 往能 合 使 雪 子 池 雪 思 失 佳 志  
雪のふりては 木もくもり 花もさびしき けり

雪

摩中 氷 簞 聲 脆 龍 額 珠 投 顯 寒

まよきうしあわれ  
まよきのうきまつきたに  
まよ

佛名

香火一鐘かね一つ蓋せき白しろ頭かぶ夜よ礼らい佛ぶつ名な禮らい  
香かう自じ禪ぜん心しん無む用よう火か花か開ひら人ひと集あつ不ふ因いん春はる  
あたまのしんごん  
しみとほろとからや  
かきかきまらるあつ  
まよきうしあわれ  
まよ

和漢朗詠集卷上

右册録と一巻と祖所贈一息元主の贈也

世東遺風録の抄也

松平定三存

記



本  
省  
丁

④

丁

